みなみたま

会 報「みなみたま」第8号
発　　行　南多摩同窓会あかね会
発 行 者　石川 和昭
〒192-8562　東京都八王子市明神町 4-20-1
東京都立南多摩中等教育学校内
URL：www.akanekai.org/
Email：mail@akanekai.org

パフォーマンスを披露する
けん玉師　伊藤佑介さん

あかね会活動へのご理解・ご協力を

南多摩同窓会あかね会 会長　石川　和昭（昭和36年卒）

東日本大震災の年に入学した中等教育学校二期生が、今春無事母校を巣立って行きました。災害の多い我が国にあって、当たり前のようでありながら当たり前でないこの六年間の無事を、会員の皆様と共に感謝したいと思います。母校の生徒達は、第四高女・南高の良き校風や伝統を受け継ぎ、授業はもとより行事や部活動など文武の両面に主体的に取り組み、大いなる成果を挙げていることを先生方から伺い、卒業生として大変嬉しく、また頼もしく思っています。

同窓会あかね会は、これまで同様会員相互の親睦・研修と母校の支援活動の充実に努めています。今般、同窓生の繋がりを更に確かなものとするため、会員名簿の改訂・発行を機関決定し、実績と信頼を有する業者に調査・作成を依頼しました。会員の皆様には、記載内容充実のため、名簿上所在不明の同級生や知人の情報を事務局までお知らせ頂ければ幸いです。改訂名簿を同期会やクラス会開催の折に是非ご活用頂きたいと思います。あかね会は、これからも南多摩の縁を大切にし、会の継続・発展と母校支援に努めて参ります。引き続き、会員の皆様のご理解とご協力をお願い致します。

来る5月21日、あかね会総会をザ・ビー八王子で開催します。母校の現状を知り、旧交を温め、また新たなる出会い・交流の場として頂きたいと思います。昨年は、中等一期生の会員20数名が出席し、年齢を越えての賑やかな会となりました。今年も多くの皆様の出席をお待ちしています。

【特集】南多摩中等教育学校の今

南多摩中等教育学校副校長　池戸 成記

昨年、高尾山での納涼会に出席させて頂きました。会員の皆様のあまりの健脚、健啖（？）ぶりや楽しいお話に魅入られていましたが、御参加されていたほとんどの方々が、私が生まれる前に御卒業をされていたことに気付き、改めて南多摩に脈々と流れる歴史とパワー、そして絆を感じ、我々教職員の使命を再認識したところです。

南多摩中等教育学校が開校して７年がたちます。この間もあかね会の皆様には多大な御支援や御協力をいただきながら今日に至っております。今回、貴重な紙面をお借りし「南多摩」の歴史とパワーを引き継ぎ奮闘している後輩たちの現況の一端を皆様に御紹介させて頂く機会を頂戴いたしました。皆様との絆の一助になれば幸いです。しばしおつきあいください。

理数イノベーション校としての指定を受けて２年目。決して理数系だけの生徒を育てる意図はありませんが、「磯の生物観察会」（磯の生物の観察・採集、プランクトンの顕微鏡観察、地層の観察など）や「星の観察会」（亜高山帯の植物や蝶を始めとする昆虫の観察、入笠山天体観測所や国立天文台 野辺山宇宙電波観測所の見学、35cm反射屈折望遠鏡を用いた天体観測会、ペルセウス座流星群の観測、と盛り沢山の内容）などの行事を新設し、生徒たちは刺激を受けています。

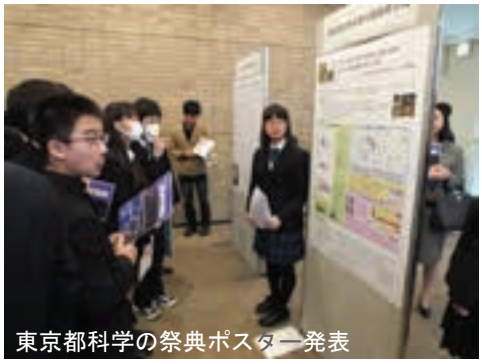
入笠山天体観測

各種コンテストへの参加も増え、６年生が本校のライフワークプロジェクトで取り組んだ論文「和太鼓のバチの寿命予測」が第６０回日本学生科学賞東京都大会の奨励賞を受賞しました。南多摩中等教育学校が開校以来、由緒ある日本学生科学賞では、初めての入賞作品となります。前期生は東京都の「中学生科学コンテスト」で「優秀賞（実技部門）」を受賞。

前期生東京都科学コンテスト表彰

東京都科学の祭典英語による発表

さらに東京都教育委員会主催の科学の祭典においては、後期生が「プログラミング言語の種類と差異 －統一化に向けて－」という内容を英語で発表し、ポスター発表では「クゲヌマランの個体群の群落構造と動態の調査および無菌播種に関する研究」という内容を発表しました。いずれも、ライフワークプロジェクトとして４年生から取り組んできたものをまとめての発表です。


東京都科学の祭典ポスター発表

28年度からは英語教育推進校としての指定も受けています。他の指定校では高２で取り組むオンライン英会話を本校では中３で行います。週に１回、生徒１人にiPad１台が配布され、Skypeを通じてフィリピンの英会話講師とマンツーマンで30分間程度、会話をします。

オンライン英会話

生徒からは「いつも聞いている英語とは違う英語だった」「聞き取れるけど、どのように返答を返すべきか時間がかかった」「楽しかったので、週に２回オンライン英会話はやりたい」等、好評なコメントが寄せられました。回を重ねるごとに生徒の成長が楽しみです。また、

今後はGlobal Scholarsも始まります。これは世界の10歳から13歳までの生徒を対象にした、デジタルネットワークを利用した交流活動のプロジェクトです。現在、24の国々の学校が参加しており、日本からは本校が初めて参加することとなりました。

部活動も元気です。南多摩フィルハーモニーが郡山市民文化センター（福島県）で行われた第５回日本学校合奏コンクール2016全国大会グランドコンテスト 高等学校の部」においてブラームス作曲「大学祝典序曲」を演奏し、見事に銀賞を受賞しました。太鼓部は広島県三原市で開催された全国高等学校総合文化祭郷土芸能部門に東京都代表で参加し、全国にその名を轟かせました。

太鼓部全国大会

前期合唱部は「NHK全国学校音楽コンクール東京都コンクール中学校の部」で銀賞を獲得。後期陸上部では、第10回日本ユース陸上競技選手権大会走幅跳び準優勝、前期陸上部は後期の好成績に負けじと、東京都代表の座を勝ち取り、第25回関東中学校駅伝競走大会への出場を果たしました。後期薙刀同好会は東京都で２位となり、今春の全国選抜大会出場を決めています。これら全国的な活動は、あかね会からのお祝い金や、楽器の運搬代の補助などが無くては成り立ちません。大会だけではなく、合宿の外部指導員への謝礼補助や、また、現地まで行っての応援など、有形、無形の補助には本当に感謝しております。紙面をお借りして御礼申し上げます。また、おかげさまで、これらの結果により、様々な事業に本校が名指しで声をかけられることも増えています。教育委員会主催の「日本の伝統芸能鑑賞教室」では、野村万作氏の狂言の前座として太鼓部が演奏し、東京都教育委員会児童・生徒等表彰の表彰式でも南フィルが演奏依頼を受けています。

小さいけれど大切な取組もあります。前期生が発掘作業中の中田遺跡（八王子市中野町）を訪問し、実際に発掘作業をさせて頂いたり、裁判所へ裁判の傍聴に行ったある女子生徒は、裁判所を出てくるなり「私、検事になる！」と言っていました。

中田遺跡発掘

裁判所訪問

本校では、特色ある教育活動として、フィールドワーク活動を推進し、今年で７年目になります。

生徒の身近には、たくさんの“不思議”があります。それらに「気づき（課題発見力）」、さらに「仲間と何度も話し合う。探求に失敗しても別の方法を探る。わからないところは専門家からアドバイスを受ける。」といった探究活動を通して、物事を多角的に眺める視点を育てています。そしてこの過程と興味・関心が自分の将来に結びついていくこと、これこそが正に本校の狙う「ライフワークプロジェクト」であり、これらは次期新学習指導要領における肝部分でもあります。ちなみに、外部での小学生向けの説明会でもこのような話をしていますが、先日ある受検生の親御さんが、「〇〇を受検するつもりだったが、南多摩の学校紹介を聞いて志望校を変更してきた」と仰っていました。うれしい話です。

成果発表会

２年生職場体験

これからも本校がすでに持っているアドバンテージを生かし、伸ばし、南多摩の良さとは何なのか、南多摩の強みとは何なのを常に問いかけ、新しいチャレンジを恐れずに、グローバルな見地をもった次代のリーダーを社会へ送り出していきたいと考えています。そして、その生徒たちが「あかね会」の息吹を綿々と受け継ぎ南多摩の伝統がさらに発展していくことを願ってやみません。あかね会の皆様におかれましては、今後とも南多摩中等教育学校への御支援、御協力、叱咤をいただきたく存じます。教職員一同、今後もあかね会の益々のご発展をお祈りしております。

和太鼓で東大！

小林　幹彦　（昭和45年卒）

東大に推薦で合格した同窓生がいるという情報が入った。さっそくアポを取り学校で会った。南多摩中等教育学校６年Ｄ組の佐藤瞭（さとうりょう）君だ。特段変わったところがあるわけでもない、気負いのない好青年だった。

１　進路の決定

中等４年生（高校１年）の頃、東大へ行きたいと思った。しかし、具体的な志望分野が決まっていたわけではなかった。それでも友人には東大に行きたいと公言していた。自分の意志を固めるためだった。推薦での受験を考え始めたのは中等６年生（高校３年）の夏ころだ。ライフワークプロジェクト（フィールドワークの一つで、中等４、５年で個人研究を行い、その成果を論文にする教育活動）の成果が使えることを先生方がアドバイスしてくれたからだ。それでもまだ、志望分野は固まらなかった。東大は入学後に専門的な分野を選択し決定していける。しかも、東大にはありとあらゆる分野の研究を受け止めるだけのキャパシティーがある。とりあえず入学して、それから考えたいと思っていた。そのような折、父から「データサイエンス」という研究領域を紹介され、興味を持った。東大に「データサイエンス」の第一人者がいることなども調べて分かった。理Ⅰ、工学部関係という志望分野が見えてきた。東大の推薦入試は学校長が自校の生徒を推薦する形式、つまり学校推薦だ。校内選考を申請した。ライフワークプロジェクトにおける和太鼓のバチに関する研究活動と太鼓部での活動の両面が認められ、学校推薦を得ることができた。

２　「和太鼓のバチの寿命予測」（第60回日本学生科学賞東京大会奨励賞受賞）

和太鼓のバチの研究とは何なのか。バチは木でできている。当然のことながら激しい練習を繰り返せば折れる。折れる時は突然やってくる。少なくとも演奏者にとっては「アッ！折れちゃった」という感じなのだ。そこに目を付けた。バチの状態を数値化してその予兆を調べることはできないか。そんな折、父が便利なものを購入してくれた。木のしなり具合を測定する器具だ。1/1000mm まで測定できる。使用しているバチをひたすら測定し続けた。測定値をグラフ化していく。折れる前に一定の変化があるという仮定だ。当初グラフの中に見えてきたものは、しなりやすさが大きくなると折れるという法則性だ。もしそうだとすれば折れる時期を予想できる。しかし、物事はそれほど甘くはない。バチが折れるという現象はそれほど単純ではなかった。測定を積み重ねるとグラフの形は様々になった。何の変化もなく折れてしまうバチもあった。実際、折れ方も様々なのだ。木目に沿って折れるときもあるが、首の部分がポキッと折れてしまうこともある。結局まとまった結論は得られなかった。今はそこまでという感じだ。

和太鼓を演奏する佐藤瞭君

３　太鼓部の活動

太鼓部での活動はどうだろう。とにかく中等１年生の時から夢中でやってきた。校内の行事や近隣での演奏から始まって成田太鼓祭（関東最大級のお祭りで、成田山新勝寺本堂前などで行われる）での演奏など多くの場を踏んだ。いや、踏ませてもらった。そして中等６年の夏、全国高等学校総合文化祭郷土芸能部門に出場した。厳しい予選を勝ち抜いた結果の東京代表だ。おしくも全国優勝とはならなかったが、その評価は高かった。

４　南多摩がすべて

東大の推薦入試は確かに難易度が高い。だから合格できたことはありがたいと誇りに思っている。しかし、一般に言われているほど難しいものではないと思う。なぜなら、南多摩の学校生活そのものをひたすらやってきたその延長上に合格があるからだ。たとえば、塾にも行っていない。そんな暇はなかった。太鼓部の活動にひたすら打ち込んだ。授業の予習、復習にも追われた。今では「無理やりやらされたことも必要だったのかな」と思うが、英語など「やり過ぎ」と思うほど鍛えられた。推薦入試の際、任意提出のTOEFL、TOEICの成績を提出した。面接でそのことに関する質問が多く、試験官の関心が高いと感じた。これも日々の学習成果だと思う。そして、バチの研究も南多摩の教育課程にあるフィールドワーク（教科の授業ではなく、調査研究をもとに考察を深め、ポスターセッションや論文など様々な発表を行う南多摩独自の教育活動）の一環だ。もちろん学校行事にも燃えた。

正直大変だった。そして楽しかった。しかし、やめたいと思ったことはなかった。東大推薦入試合格はまさに南多摩の学校生活を充実させ、謳歌した。その結果だった。

５　受験勉強

いわゆる受験勉強は中等６年の夏ころまでほとんどやっていなかった。東大の推薦入試を受けることは中等６年の10月頃決まったので、受験対策もそのころスタートした。センター試験が必須なので高得点を目指して取り組んだ。教科書の復習を徹底した。12月頃から過去問に取り組んだ。９割以上取れると感じたのは、本番直前だった。

６ 何が自分を成長させてきたのか

自分のここまでを振り返ってみるとこれだといえるような生き方、モットーと言えるようなものは見つからない。南多摩に入ろうと思ったのは友達の影響と「自由な感じ！」という思いつき。太鼓部に入ったのもちょっと見て「おもしろそう！」という思いつき。東大を選んだのもキャンパスを見に行った時の一目惚れというか、思いつき。小さいころから東大合格までの共通点を見つけるとすれば、好きなことをやってきた、ということだろうか。

７ 将来

将来何をしたいか、どうなっていくのかよくわからない。教育には少し興味があり、数量化して研究できれば面白いと思う。AIによる教育など、既に様々な研究があると思うが、関心を持っている。

８ 同窓生に伝えたいこと

後輩に伝えたいことは、部活をしっかりやれということ。それからもう一つ、面接試験の時ある試験官と言葉がすれ違い「終わったな」と思う苦い経験をしたので言うのだが、いろいろな人と話をしておくとよいということ。

あかね会の先輩方には本当に感謝している。言葉では言い尽くせない。自分たちが南多摩での生活を謳歌できる環境を支えてくださった。特に太鼓部の活動はあかね会あっての太鼓部だと思う。心からお礼を申し上げたい。

いきなり会いたいと連絡し、無理やりアポを取った。自然体で、礼儀正しく対応してくれた。同窓会としては、在校生の学校生活のほんのわずかな一面しか応援できない。しかし、それが一人の後輩の成長にわずかながらでも貢献しているのかもしれない。そう思うと心の高まりを感じた。きっと取材後、私はニヤッとしてしまったのではないかと思う。照れくさいけれどうれしかった。

あかね会の皆様への感謝を込めて

南多摩中等教育学校長　永森 比人美

あかね会の様々な行事に参加させていただいて、つくづく思うことは、心身ともに健康を維持することが何よりも大切であるということです。皆様のハツラツとした言動に尊敬の念を抱いております。私も日々精進して皆様のように年を重ねていきたいと思います。

さて、校長として着任し、１年が過ぎようとしています。振り返ると、４月１日に京王八王子の改札を出て、地上に上がった際に感じたことは、「寒いなー、家を出たときより体感的に２度くらい低い気温だな。」ということでした。私は暑さには強いのですが、寒さは苦手です。「１月から２月にかけてもっと寒くなるのに嫌だなー。」と正直思ったところです。しかし、今では寒さにも少し慣れ、自然に恵まれ、山並みが美しい八王子が大好きになりました。また、地域やあかね会の皆様の本校への御理解や御支援に言葉では尽くせない感謝の気持ちでいっぱいです。皆様に支えられ子供たちがすくすくと成長している様子に触れると心が温かくなります。ありがとうございます。

池戸副校長が記した「南多摩中等教育学校の今」にある通り、心・知・体の調和から生まれる「人間力の南多摩」という教育目標を体現すべく、生徒たちは様々な分野で活躍しております。平成28年度は、生徒の活躍ぶりを全都に強く発信できた年だと思います。進路実績については、１期生に引き続き２期生が、進学重点校に引けを取らない実績を打ち出しました。２期生は特に英語が強く、早期から英語の力を安定させることにより、余力を他教科に回すことができました。本校の教員の教科指導力と学年担任団及び進路指導部との連携が見事に花を咲かせた結果だと思います。また、部活動では、太鼓部、陸上部、南多摩フィルハーモニー、科学部、なぎなた部、卓球部を始め、様々な部の活動で大きな大会で表彰を受けました。特別活動では、八王子警察署の御協力の下で実施した「命の授業」を踏まえた「命の作文」では、警察庁長官賞を得た生徒もおります。

さらに、本校の教育活動の柱であるフィールドワーク活動においては、平成28年11月19日に開催した成果発表会を参観された山梨県総合教育センターの方による推薦で「月刊高校教育」の２月号に〝高校で育む21世紀型学力〟の一例として紹介されました。

今後は、各教科で学んだことがフィールドワークに生き、フィールドワークで体得したことが各教科の学習に活用できるように、また、前期課程で学んだ探求の基礎が、後期課程のライフワークプロジェクトに円滑につながり、生徒が自己の将来の姿や社会との関わりを見据えた在り方・生き方を考えられるよう、6年間のストーリーを踏まえた教育活動のマネジメントの質の向上を図りたいと思います。

東京都教育委員会からも本校のフィールドワーク活動の実績が評価され、理数イノベーション校及び英語教育推進校の指定に加え、平成29年度の新規事業である「知的探究イノベーター推進校」（仮称）として指定を受けることになりました。大学や研究機関との連携等多様な学習機会を設定し、文・理の境を越えた総合的な価値創造力を鍛える教育を推進してまいります。

今後ともあかね会の皆様の変わらぬ御支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

南多摩中等教育学校卒業生の進路状況

母校南多摩の平成28年度進路状況について、「おおくすのき」（現役生徒のための進路指導資料）をもとにまとめてみました。

○　難関10と呼ばれる大学へ進む生徒が増えた。東京大学３名、一橋大学４名、東京工業大学４名、北海道大学３名、東北大学１名など。

○　地方の特色ある国立大学に進む生徒が増えた。山形大学、茨城大学、信州大学、山梨大学、奈良女子大学、鳥取大学、大分大学など。

○　国公立大学の推薦入試に挑戦し、合格する生徒が出てきた。東京大学、奈良女子大学など。

○　過年度生（１期生）は、現役時の志望を貫き、目標を達成した。医学部４名、東京外国語大学２名、東北大学１名など。

○　私立大学では早慶上理、GMARCH に挑戦する生徒が増え、合格者も飛躍的に伸びた。早慶上理62名、GMARCH126名。

「受験は個人戦の総体としての団体戦」という伝統を見事に実践し、成果を上げた生徒が多数いたようです。

同窓会として自習環境の整備等に支援してきたことが実を結んでいると言えるでしょう。

平成 28 年度主要大学入試合格実績（2017/4/7 時点）
２期生（現役のみ卒業生 145 名）＋１期生（過年度）

１　国公立大学及び国公立医学部・獣医学部

国公立大学	2期生	1期生	計
北海道大学	3		3
東北大学	1	1	2
山形文学		1	1
お茶の水女子大学	1		1
電気通信大学	1		1
東京大学	3		3
東京外国語大学	1	2	3
東京学芸大学	1		1
東京工業大学	4		4
東京海洋大学	2		2
東京農工大学	3		3
一橋大学	4		4
横浜国立大学			0
山梨大学	1		1
信州大学	1	1	2
茨城大学	1		1
奈良女子大学	1		1
鳥取大学	1		1
大分大学	1		1
首都大学東京	10		10
横浜市立大学	1		1
計	41	5	46

上記のうち医学部	2期生	1期生	計
山形大学		1	1
信州大学		1	1
計	0	2	2

上記のうち獣医学部	2期生	1期生	計
北海道道大学	1		1

３　短大・海外大学・専門学校等

海外、短大、専門等	2期生
東京工学院専門学校	1
新国立劇場演劇研究所	1
東京都立南多摩看護専門学校	1

２ 私立大学・私立大医学部

私立大学	2期生
早稲田大学	26
慶應義塾大学	14
上智大学	9
東京理科大学	13
明治大学	38
青山学院大学	19
立教大学	16
中央大学	21
法政大学	31
学習院大学	1
成城大学	7
成蹊大学	6
國學院大学	6
明治学院大学	6
武蔵大学	4
芝浦工業大学	2
日本大学	37
東洋大学	17
駒澤大学	3
専修大学	9
津田塾大学	4
東京女子大学	4
日本女子大学	3
立命館大学	4
関西学院大学	2
龍谷大学	3
京都産業大学	1
自治医科大学	1
日本獣医生命科学大学	2
北里大学	6
順天堂大学	5
昭和大学	1
東京薬科大学	1
東京都市大学	6
東京農業大学	26
東京医科大学	1
東京医療学院大学	1

私立大学	2期生
桜美林大学	1
大妻女子大学	3
共立女子大学	2
杏林大学	4
恵泉女学園大学	1
工学院大学	4
國士舘大学	4
昭和女子大学	1
白梅学園大学	2
白百合女子大学	1
創価大学	2
大東文化大学	2
玉川大学	5
千葉工業大学	1
東京造形大学	1
東京電気大学	3
東京医療学院大学	1
東京家政大学	1
東京経済大学	4
東京工科大学	4
東京工芸大学	1
日本体育大学	1
武蔵野大学	10
武蔵野美術大学	2
明星大学	3
濁協大学	3
麻布大学	1
神奈川大学	1
東海大学	2
計	427

上記のうち私立大学医学部	1・2期生計
自治医科大学	1
北里大学	1
東北獣医薬科大学	1
順天堂大学東京地域枠	1

好きなことを職業に！　子どものころからの夢を叶えて

― けん玉師・伊藤佑介さん(平成10年卒)にインタビュー

松村　遼　(平成28年卒)

2016年10月9日、東京都台東区の谷中五重塔跡子ども広場には人だかりができていた。そこでは谷中まつりが開催されており、けん玉師である伊藤佑介さんが公演をされていた。曇り空をものともしない大迫力のけん玉に、私は圧倒されるばかりであった。

谷中祭りでパフォーマンスを披露する伊藤佑介さん

今回は、けん玉の日本一に10回なり、２つのギネス記録を持つけん玉師の南多摩卒業生伊藤佑介さんにインタビューをした。

けん玉の魅力

けん玉の魅力について「シンプルな遊び道具かつエンターテインメントとしての道具であり、３万種類ある技を通じて色々な表現をすることができる」と考えている伊藤さん。

彼は、７歳の時に兄の影響でけん玉を始めた。日野けん玉道場に通うほど没頭し、小学校の卒業アルバムには「土日が休みの会社に入りけん玉を続ける」と書きながらも、けん玉を職業にするという考えも密かに持っていた。大学４年生の時に就職先で悩んでいた彼は、46歳にして沖縄県与那国島へ移住し起業した母の元へ訪れた。「母の生き生きした姿を見て、人生一回きりで自分が思ったように生きなければいつか後悔する」と感じた彼は、昔からの夢であるけん玉師を目指すことを決意する。母親に打ち明けると、いつかそう言うと分かっていた様子で非常に応援してくれたという。

けん玉師をやってきた中で一番楽しかったことについては「毎回のショーや出会いを楽しむことができているので、一つ一つの現場が常に一番。」と話す。一方、一番大変だったことについては「あまり辛いと感じたことはない。好きなことを職業にできたので、純粋に楽しくやっている。」と話した。そして、今後の展望については「今まで通り様々なところでけん玉のショーやワークショップを行っていきたいが、今後は自分のけん玉人生を語る講演会を増やしていきたい。これを通じて、好きなことを続けている子どもや大人に勇気や活力を与えたい。また、世界の人たちにけん玉の魅力を伝えていきたい。」と決意を見せた。

南多摩高校の思い出

南多摩高校での一番の思い出は、「良くも悪くも部活に所属せず、けん玉を黙々と練習することができたこと」と懐かしんでいた。「自分の目標に向けた姿勢は良かったと思うが、周りの人たちからの刺激を受けて視野を広げられていればもっとけん玉人として大きく成長できたかもしれない。ただ、その独りよがりさを反省して今は周りの存在をしっかり意識して活動することができている。」

けん玉師・伊藤佑介さん

後輩へのメッセージ

最後に、南多摩の後輩へメッセージを贈ってくれた。「昔とは状況が変わり、志を持って南多摩に通っている人が多いと思う。中学や高校時代でしか味わえない体験や経験をして、素晴らしい人生を送ってほしい。」

私の大先輩として、今後の伊藤さんの更なる活躍を期待したい。

【歴史発見１】東京オリンピックを前に…「かつて母校水泳部が強かった頃のエピソードをひとつ」

井上　務（昭和44年卒）

日野原重明先生称賛、毒蝮三太夫さんも

水泳部とは全く関係が無いように思える話題からスタートします。

写真①　「ニューエルダーシチズン大賞」を受賞した西川さん
隣は**毒蝮三太夫さん、後方は日野原重明先生**（読売新聞社提供）

新聞報道（読売新聞2016･10･23付）などで既知の方も多いと思いますが、昭和23年（本科４カ年修了）卒の西川知恵子さんが地域貢献などで活躍する70歳以上を称える2016年度の「ニューエルダーシチズン大賞」を受賞されました（写真②）。

写真②　ニューエルダーシチズン大賞の賞状

全国521人の候補の中から、たった２名が選ばれ、そのうちの１名が我々の大先輩・西川さんでした。車椅子ダンス、水泳、シェークスピア研究等に取り組む姿が評価されました。記事によると審査委員長の日野原重明先生から「あなたの輝きは、努力の結晶」と称賛され、毒蝮三太夫さんからは「まいた種が広がって大きな花を咲かせている」と称えられたとありました。西川先輩個人を紹介する記事の見出しには「車椅子生活50年　挑戦続く」とあります。同記事には車椅子から愛車に移る姿の写真が紹介され「これがあればどこへだって行けますのよ」との西川さんのコメントが掲載されていました。

国登録有形文化財

昭島市在住の「あかね会」の皆さんは既にご存知の方も多いと思いますが、昭島市内中神町にある「西川家旧別邸蔵」が国の登録有形文化財に登録されました。大正後期の建造で、当時としては珍しい初期の本格的鉄筋コンクリート建築として貴重であるとして登録されました。その登録証と登録プレートが届けられたとの新聞報道（読売新聞2016･12･18付）を目にしましたので早速西川宅にお邪魔し、実に重厚で立派な登録プレートを写真に収めてきました（写真③）。

写真③　国登録有形文化財の登録プレート

今回登録されたのは「別邸蔵」ですが「別邸」そのものは既に小金井市内にある江戸東京たてもの園に移築されております（高橋是清邸に隣接）。

この国登録有形文化財登録に呼応するかのように昭島市近代史調査報告書Ⅳとして「西川製糸」と題するブックレット2016が昭島市教育委員会から刊行されました（領価800円）。世界遺産となって一躍有名になった官の富岡製糸に対し「西川製糸」は民。民間企業として有数の規模を誇った様子が豊富な写真とともにブックレット「西川製糸」に詳細に綴られました。

西川先輩は「（「別邸蔵」が）西川製糸のモニュメントとしてこの地に残せて良かった。周辺環境も生かし、地域振興や生糸文化の発信などの活動につなげていきたい」と記事で語っています。西川さんは「蔵」の横を流れる清流に舞うゲンジボタルの保存、さらに、お庭の池を改良してヘイケボタルの飼育にも尽力されています。そして生糸をもたらしたカイコはホタルとともに昆虫であることを念頭に「絹の道　蛍の光　東京シルクホタル文化園」構想を具体化しようと既に始動しています。

先に記した「ニューエルダーシチズン大賞」受賞の理由もそうでしたが、西川さんの行動のすべては「西川製糸」創業者から伝わる「世のため、人のために役立つ人間たれ」との精神がその行動の根底にあるようです。

For Others

英語が堪能な西川さんは頻繁に会話の中に「For

Others」という言葉を発します。その西川さんが何気なく語ったお話しの中に今まで聞いたことのない「水泳部」に関する興味深いお話しがありました。

母校創立100周年記念誌「湧水万古」によれば昭和３年プール完成。昭和13年、野中喜美子、第12回オリンピック水泳選手第一候補に選ばれる。昭和15年、旗野冨美、水泳で日本記録。四百米自由形で世界三位にランキングされていたとの記述（湧水万古266ページ下段）も見つかりました。同15年は日本女子中等学校選手権水上競技大会で全国制覇達成。その後、全国制覇は昭和17年、終戦後の21年、23年、24年と続き、水泳の第四の名が全国に轟きました。

さて、冬季における屋外プールでの練習は無理です。当時、西川製糸は熱海に保養施設を持っていたそうです。従業員の福利厚生などに利用していたのでしょうか、その施設内には「温水プール」があったそうです。水泳で全国制覇を続ける第四は娘さんが学んだ学校。西川さんのお父さんは水泳部の冬季練習の場として西川製糸の施設内にある「温水プール」を水泳部に提供したのだそうです。当時、西川さんは既に第四を卒業していた時期でしたが「知恵子がお世話になった学校だ」と「For Others」の精神を具体化されました。「For Others」の心は創業者、二代目にまで続いていたのだと感じました。そして曾孫の西川知恵子さんにも見事に継承されていることを確信しました。

母校水泳部の全国制覇は選手の努力、先生方の指導によってもたらされたことは当然ですが、他校が真似できない冬季の「温水プール」での練習も大きく貢献したに違いないと感じました。「あかね会」会報に文字として残しておかないと忘れられてしまいそうな気がしましたのでここに記しました（もし、温水プールで練習した記憶や情報をお持ちの方がいらっしゃいましたら教えて頂きたく思います）。

写真④ 全国制覇をした水泳部

私達も・・・

今、私達の後輩たちは文武ともに大活躍しています。個人として温水プールを提供することは難しいですが「あかね会」では後輩たちへの応援をこれからも続けていきたいと考えます。オリンピック候補を擁していた我が母校でしたがそのオリンピックは戦火で幻となりました。戦火さえなければ母校にオリンピックメダルを持ち帰った生徒がいたのかも・・・。

平和な時代の東京オリンピックが目前です。遠い昔、オリンピックに行けなかった先輩のリベンジを果たす後輩が出現するかも？そんな思いを込めて拙文を綴ってみました。

【歴史発見２】　南多摩高校地歴部と故中村 威 先生

菱山 剛秀（昭和 44 年卒）

もう半世紀以上前になる。

昭和30年代後半から40年代にかけて、日本の経済成長に伴い、八王子とその周辺の多摩地区は、急激な大都市への人口集中が起こっていた。地形的に台地や丘陵という比較的土地の造成がし易いこの地域は、その受け皿として大規模な住宅開発が行われるようになった。

一方、この地域は先史以前から人々が住み着き、地下には多くの遺跡が眠っていた。こうした遺跡が開発によって破壊されることへの対策の必要性を感じていた国立音大の甲野勇氏、八王子市教育委員の井上郷太郎氏を中心に13名が参加して昭和35年に「多摩考古研究会」が設立された。

この13名の中に、南多摩高校の関係者が３名含まれている。中でも設立当時南多摩高校にいたのが中村威先生である。中村先生が昭和43年に国立高校に転任され、後任として着任した蒲田辰之先生もこの中にいた。このお二人のほか、第13代校長の渡辺忠胤先生も研究会の主要メンバーの一人である。

当時、南多摩高校には「地歴部」という文科系のクラブがあり、中村先生を中心に毎年夏休みなどを利用して市内の発掘調査を行っていた。八王子では南多摩高校以外にも市内の高校が同様の調査をしており、その成果が多摩考古研究会の機関誌「多摩考古」に掲載されていた。南多摩高校の調査結果は、中村先生により昭和35年の第１号に「小比企町山王台敷石式住居址」、36年の第２号に「横川町縄文後期遺跡」、38年の第５号に「宮下町縄文中期住居址」、42年の第８号に「山田町土師式住居址」が報告されている。

甲野勇氏は「武蔵野を掘る」という著書の中で、南多摩高校の調査をいくつか紹介しており、小比企町山王台敷石式住居址については、次のように紹介している。

石棒のたてられている敷石住居

同じ年（昭和三十四年）の八月、この発掘地の南三百㍍ほど小字山王と呼ばれる畑地を、南多摩高等学校の中村先生の指導のもとに、同校の生徒諸君が発掘して敷石住居址一つを発見した。石は円形に敷かれ、その直径は三㍍余、中央に炉が設けられているが、その周辺の石敷きはまばらである。（以下、遺跡の解説を省略）

小比企の発掘調査については、昭和35年のこの調査の12年前、まだ第四高女時代にも発掘調査を行っており、その時のことは次のように記している。

小比企の石器時代集落

（遺跡の位置の説明を省略）この丘の上の所々に、縄文式中期から後期の初めにかけての遺跡が点在している。

はじめて調査されたのは、戦後間もない昭和二十三年で、場所は小字向原。都立第四高等女学校（今の南多摩高等学校）の保坂先生の指導で、同校の生徒有志によって行われ、竪穴住居址一つを発掘した（第一号竪穴）。喰うものもなく私などはサツマイモの夢ばかり見ているときに、女生徒ばかりの手で直径五㍍余、深さ一㍍に近い竪穴を掘りあげ、その測量まで完全にやりとげ、戦後の女性の意気込みを示したのは見事だった。

（以下、遺跡の解説を省略）

その他、横川町縄文後期遺跡は、この地域では珍しい縄文後期の遺跡であり、全国的にも珍しい土冠やさまざまな耳飾りが多数出土したことなどから、昭和42年に刊行された八王子市史下巻にも掲載されている。

八王子市中野の中田遺跡は、南多摩高校、第二商業高校、富士森高校、国立高校の生徒たちが昭和41年の夏休みに発掘調査した成果がきっかけになって、当時としては非常に珍しい区域の全面発掘調査が行われた。このとき、南多摩高校の調査を指導したのが中村先生である。

中田遺跡の調査報告書（八王子中田遺跡　古墳時代集落址の調査　資料篇Ⅰ）の第１章中田遺跡の概観の調査の経緯の最後で甲野勇氏は次のように述べている。

「また、交渉のなかばだった昭和41年７月下旬より８月上旬にかけて、都立八王子工業高等学校、都立南多摩高等学校、都立第二商業高等学校、都立富士森高等学校、都立国立高等学校の生徒有志が、教職員指導のもとに、調査費自弁でこの地の一部の調査を行い、弥生、古墳、奈良平安時代に属する竪穴住居址７戸と縄文時代遺物包含地を発見、これによって中田遺跡の真価を世に明らかにし、全面的調査の糸口を作った実績は、遺跡調査史上特記すべき出来ごとと言っても過言ではない。」

中田遺跡は、翌年から専門家による調査となったため、高校生は主体的に参加できなかったと記憶している。この遺跡は後に市指定の遺跡となり、一部が公園として整備され、公園の敷地には復元住居が１棟建っていたが、老朽化のため昨年２月に取り壊された。中村先生が亡くなった直後にこの復元住居が取り壊されたと聞き、改めて半世紀という時の移ろいと中村先生との縁を感じる。中田遺跡が専門家の調査に委ねられたこともあり、昭和42年には川口町の宮田遺跡の調査を行っている。中村先生はこの後国立高校に転勤されたが、南多摩高校の発掘調査には昭和43の調査まで顔を見せてくれていた。

昭和43年の宮田遺跡の調査では子抱土偶が発見され、出土の様子を先生のカメラに収めていただいたが、帰りの電車で網棚にカメラを置き忘れ、カメラと共に記録したフィルムを紛失したことを後々まで悔やんでおられた。

中村先生のお住まいは杉並だったが、その後も南多摩高校で始めた多摩考古研究会の活動は続けられていたようで、多摩考古の会議で八王子に来ることを楽しみにしていたという。

中村先生が南多摩高校を離れた昭和43年に地歴部OB会ができた。OB会の目的は南多摩高校を離れた地歴部OBの親睦であり、中村先生も参加されていた。

この頃、地歴部は部員が少なく存続が危ぶまれていた。

思い出すのは、次のようなOB会での発掘談義である。

中村「これはネ、どうも、骨を折ってやったからって相手に勝つっていうもんじゃないからネ。はなはだかんばしくないんだよ。」

木下「（発掘は）じみだからネ。」

中村「スピード時代には合わねぇんだろう。手で掘ろうなんてんだから。（笑）」

木下「ブルドーザーでやれっていうわけにもいかないしネ。」

中村「そうなんだよ。まったくネ。ガリガリ掘っちゃうていうわけにもいかないしネ。」

地歴部の発掘は、昭和44年の長房町中郷遺跡が最後になってしまったようである。

中村先生に最後にお会いしたのは６年半ほど前になる。還暦を機に昭和44年卒「地歴部」同期会を開催することになり、先生に声をかけたところ、体調を気にしながらも八王子まで出かけてきてくださった。40年ぶりの再会だったが、卒業以来、地歴部で経験したことを活かし、考古学や地理に関わった者、途上国の支援を行ってきた者、普通に結婚して母になった者・・・40年の時を経て再開したみんなの顔に、若干の皺が刻まれてはいるものの、逞しさが感じられた。この時は、地歴部当時の思い出や参加者の近況などに話が弾み、３時間ほどの時間が瞬く間に過ぎ去った。翌年は私たちだけでなく、地歴部の先輩にも声をかけ、中村先生にもお出でいただこうとしたが、この時は体調が思わしくないということで欠席され、その後、東京を離れ娘さんの住む茨城県で過ごされていた。先生とは毎年年賀状を交換しており、昨年もいただいていたので、ご存命と思っていたが、今年になってご子息からのメールで昨年１月に亡くなられていたことを知った。

中村先生（平成 22 年撮影）

他界された先生のご冥福を改めてお祈り申し上げる。

会員通信

回想・卒後 61 年目の 80 歳
都立南多摩高校・同期会レポート

赤倉昭男（昭和 30 年卒）

2016年10月18日(火)、母校に近い、八王子市明神町のホテル「ザ・ビー八王子」で、昭和30年3月に卒業した同期生66名が、「傘寿記念同期会」に集まりました。

卒業後、大げさに言えば“空前絶後”になるこの同期会は、実に61年ぶりの友に再会できるという貴重な機会でした。

桜開花のニュースが出始めた3月下旬、私は同期の小室節子さんから突然のお電話をいただきました。八王子在住の大塚光代さんたち仲間と話し合って、第7回卒業生の同期会を開催することになったので、ぜひ主幹事になってほしいというお話でした。理由は、卒業時期に私が生徒会長だったからということでした。断る理由もなく、何より級友たちと再会したかったので、快くお受けしたというのが経緯です。

開催に際して、何人にご案内をすべきか、平成20年の南多摩高校創立百周年式典の時点で、現住所が判明している方々を調べたところ、昭和30年卒業生全7組の約350人のうち205名が該当しました。8月1日一斉に案内状を送りました。出欠の回答を締め切った8月20日の結果、興味深いことが分かりました。

出　席　69人　(3人は当日欠席) 34%
欠　席　82人　40%
無回答　54人　26%

また、出席者は現在どこに住んでいるかは次のようになりました。

八王子市内　　25名　約38%
都内他市区町　21人　約32%
神奈川県市町　13人　約20%
千葉・山梨・福島県・埼玉県　7人　約10%

参加者の集合写真

最後に、出席者の男女別を見るのも面白い。卒業時の男女別比率を考慮しても、女性陣の優勢が目立つように思えました。

男性　12人　約18%
女性　54人　約82%

総合司会の小室節子さんのリードで会は始まり、私の開会のあいさつの後、既に天寿を全うし先に逝った同期生を偲び皆で黙祷を捧げました。次いで校歌の斉唱は、長田百合子さんのリードで同窓会あかね会の田中ミホ副会長のご厚意でお借りできたビデオの中の横井明子先生(母校の元音楽教師)の合唱指揮に合わせ、会場いっぱいに声を響かせ学校時代を懐かしみました。

メインイベントの宴会は、倉茂光子さんの乾杯で始まり、大塚光代さんの司会で9つの大テーブルに分かれた参加者を次々に回り、近況を話していただきました。最後まで、当時の名前や顔と一致しないなど、61年ぶりの長い空白を埋めるのは大変でした。会は橋本智代さんの感動的な閉会の言葉で、別れを惜しみつつ終えました。

ここに掲げた66人の弱冠80歳の仲間をとらえた写真は高島勲さんのカメラ。この群像の中の何人の名前を、あなたは当てることができますか。

■最後に、今回の同期会の準備したメンバーを紹介いたします。

《主幹事》赤倉昭男《副幹事》小室節子、大塚光代《幹事》猪俣昌子、小川清志・路子夫妻、長田百合子、倉茂光子、桑原直子、小堀誠一、高島　勲、土屋政子、橋本智代、山田悦子(幹事50音順)　以上

昭和48年卒業同窓会開催

平成28年11月12日京王プラザホテル八王子で、卒業生145名が参加して盛会のうちに閉会しました。
当日は当時の恩師、2組担任新倉先生、8組担任水田先生のお二方にもご参加いただきました。

会の様子などは同窓会ホームページで参加者からの写真などでお伝えしています。

参加者の集合写真

南多摩高校昭和48年卒業同窓会ホームページ
http://www3.hp-ez.com/hp/minamitama48/

昭和44年卒 同期会報告

「65、66 歳が高校生に戻った数時間」

井上　務（昭和 44 年卒）

母校見学会

平成28年11月19日（土）、午後４時からの「入学50周年記念」の同期会に先立って母校見学会を行いました。「天候もイマイチだし参加者は数名だろうネ」との想定を裏切る人数が小雨の中、集合。「駅から母校への道に迷ってしまった」との友。母校脇を巡っていた湧水は暗渠下、時計台のない校舎、林立するビル群に遮られる視界…。迷っても仕方ありません。集合場所の歩道橋横では「久し振り～」「懐かしい～」は僅かで「あなたは誰？」「君こそどなた？」でした。「そのうち思い出すヨ」。午後2時30分、そんな状態で見学会は始まりました。

見学会は先ず、地図の専門家Ｈ氏が示す大正10年の地図資料の解説からスタート。「ひがしはちわうじ」と表記される駅が母校の目の前にあったことを教えて頂きました。そして校内に。創立者胸像を見上げ、今や中学生が入学してくる「都立南多摩中等教育学校」へと大変身した我らが母校「都立南多摩高校」閉校記念碑に目を転じ、美しく黄葉したイチョウを愛で、戦火にも負けずに蘇ったクスノキを仰ぎ、マテバシイのドングリを拾い、カリンの香りを確かめたりしていると目の前に野球部の女子マネージャー２人の姿。「このオジサン、オバサン達は50年前に入学した皆さんの先輩」と挨拶し「将来の夢は？」「甲子園には行けそう？」等と楽しい会話。校長室を外から眺め、後輩たちに寄贈した多摩産材で作られたイスとテーブル等を遠望し次なる目的地へ向かいました。

母校土地提供者のお孫さん宅訪問

そこは、我が母校の広大な敷地をまとめて提供してくださった方のお孫さんが暮らすお宅。大勢でお邪魔しましたが大歓迎していただきました。土地の提供者は祖母ナツさん、その場所に建った第四高女に通われたお母様のツヤさんは人力車で送り迎えだった等のお話しを披露してくださいました。ご本人も南多摩の卒業生。玄関先で撮った写真をすぐさま人数分を焼き増してくださり同期会会場に持参してくださいました。思ってもいないご配慮に驚き感謝の心を込めて登壇をお願いしましたが固辞されました。「それでは私たちの気持ちがおさまりませんので・・・」と懇願し会場でのご挨拶を頂いた次第です。同期会に我らが集った淵源はこの方の祖母ナツ様、そして創立者がいたからですので・・・

いよいよ同期会

サンディエゴからの参加、スイスから帰国したばかりの方、大学教授、市議会議員、画家、声楽家、会社重役、北海道から駆け付けた管制官、地図やトリのエキスパート、税理士、薬剤師、ベリーダンスもフラダンスもこなす非凡なる主婦、数千を越える教え子を持つ多くの教員、有能な公務員・・・多士済々でした。でも、みんな同期生。多くが現役を引退する年齢。余生なんて言葉は余った生ですが我が同期生は皆元気で世の中にまだまだ与えるべきものとその気力・実力を備えた「与生」を生きていると感じました。

大きな賛同の拍手

その中でも会社重役だったＳ氏の近況報告は奥様へ美味しい朝食を作って差し上げているとのお話しでした。このお話しには非凡なる主婦集団の同期女性陣が「ウン、ウン」と大きく頷きながらのそれは、それは大きな、大きな賛同の拍手を送っている姿を私は見逃しませんでした。彼のスクランブルエッグは絶品だそうです。今度、チャンスを作って彼のウクレレ演奏を聴きながら皆で試食させて頂きたいものです。

お元気な恩師

ご出席いただいた恩師、相沢先生が「与生」の先頭を走っています。恩師、三浦先生の溢れる若さはまるで「同期生」でした。両先生、ご出席本当にありがとうございました。刺激的な卒後教育を今後とも宜しくお願い致します。スライドショー、オー・ソレ・ミオスライドショーは盛り上がりました。「ワー！」「懐かしい～」「これって山中湖？」「キャー、カワイイ～」の歓声が会場に溢れました。作成中心者Ｔ氏および写真提供など応援の皆さんに大感謝です。記録係りのＨ氏にも大感謝、素早いHPへの写真アップに反響が続々（写真の中には相沢先生撮影の写真も多数）。「華やぎて声あわせた」校歌斉唱指導のM氏とMさま、ありがとう！

M氏のオー・ソレ・ミオは圧巻でした。同期会も終盤、夜も更けてきましたが閉会直前の会場には明るい「太陽」が輝きました。発起人の皆さん、ありがとう！そして、モウさん、久美ちゃんをはじめとする発起人の皆さんお疲れ様でした。次回も期待しちゃいます。

二次会でも語り尽くせずに三次会もあったとか・・・病み上がりのＴ氏も三次会に参加したと聞き、これは全快の証拠と安心しました。トリのＳ氏、高校時代は同級生だったのに浪人したばっかりに大学に行ったらキャンパスには先輩になっているＫさまとバッタリ。今回はその先輩と楽しく語ったそうでメデタシメデタシ。

「♪われら若人～♪」

午後2時30分からの母校見学会から携わり、司会もＫちゃんとやらせて頂いてちょっとお疲れの私。クマが出没する我が街は危険地帯なので、あまり遅くならないように二次会で失礼させて頂きました。お陰様でクマさんに遭遇することなく無事に帰宅できました。クマ対策にも有効かと「♪湧水は街をめぐり～♪」「♪われら若人～♪」と歌いながら駅からの帰路につきました。

参加者の集合写真

昭和45年卒業生同窓会

田中洋・飯田隆（昭和45年卒）

平成28年12月4日(日)「第4回 昭和45年卒 同窓会」を京王プラザホテル八王子にて5年ぶりに開催し、男性33名女性27名の計60名の方々に出席して頂きました。

卒業アルバム等を持参し、皆その頃に戻り笑顔で語らい、楽しいひとときを過ごしました。

還暦記念同窓会から5年、早い！最近1年が短くなった気がする、もう65歳、実感が無い、ただ、体の随所に経年劣化の症状が散見されることは否めない。

開会に先立ち集合写真を撮影、私は最後列で椅子の上に立ち、前列の人たちの頭を上から見る形になった、確かに、色はゴマ塩から塩ゴマに、地形はサバンナから砂漠へと広がり、温暖化と5年の歳月を感じさせた。

田中ヘッドコーチの司会で会は始まり、幹事長臼井級長の開会宣言、何故か似合う、だからクラス会でもないのに級長なのだ。

続いて、小林中等教育学校初代校長が我校の歴史が閉じたのではなく、南多摩中等教育学校生徒が継承していることを紹介してくれた。

ただ、話に聞くと、現在の生徒たちは当時の我々より出来が良いようだ、喜ぶべきだろうか？・・・喜ぼう！

料理と酒で徐々に話の輪が出来て行く、話題には困らない、65年間、同じ時代を同じ世代で過ごしたのだから。

最近、話す相手の大半が年下、部下は半数以上が我が子よりも若いので、時代の立ち位置の相違により、お互いの基準に違和感を感じ、会話が行き詰るのである。

彼らにとって宇多田ひかるの母親が藤圭子だが、正しくは、藤圭子の息女が宇多田ひかるなのです。

サイモン＆ガーファンクルの♪ミセス・ロビンソン♪のテンポがダウンして、同調してジョンの車がノッキングしながらスローダウンするのです。

シェークスピアが何と言おうと、ジュリエットはオリビア・ハッセーなのです。

これら我が世代の定理の上に会話は大いに盛り上がり、時は瞬く間に過ぎ、次の再会を約し中締めとなりました。

二次会はセレオ八王子のパパミラノに44人参加して、仕切り直しの延長戦となりました、ここでも話は尽きない。

高校時代の思い出は、常に仲間がいて、そう、いたからできた思い出が多いよね。

400人が同じ場所で、同じ景色を眺め、同じ空気を吸って、同じ時間を過ごした、それぞれ、違う角度、違う感性、違う個性で。

400人×365日×3年＝・・・いっぱい。

同窓会は思い出をいっぱい持ち寄って来る、半世紀過ぎても発見はあるよね、思い出の場面を自分の反対側から観た人もいる、理解できなかった謎が解き明かされる。

話題も病気・医者・薬、年金、孫、半世紀の歴史、そして、これから。

話題は途切れないよ、忘れるのも早いから同じ話の同じフレーズで笑えるもん。

2011年の第3回同窓会でサッカー部斉藤キャプテンの提案によりソフトボールクラブ「チーム南多摩」ができた。

24名の同窓生と伴侶・子供・孫・知人、計32、3名もっとかな？ほぼ毎週日曜日に町田小山田自然公園小野球場・八王子上柚木公園グラウンドを中心に活動している。

高校時代、クラスもクラブも違い、話もしたことのない同窓生とグラウンドを走り回る？？本人は走ってるつもり・・。

キャプテン斉藤は「伸び代はまだまだあるぞ！」と先頭を走る、よろけながら。

田中ヘッドコーチは地道に教え続ける、卓球部出身なのに野球・サッカーなんでも理論的な解説とコーチングをする。私のような5年たってもルールを覚えきれない継続的初心者にも・・　同窓生だから。

ベンチが同窓生サロンになるといいね、プレーしなくても、「暇だから顔見に来たよ！」

なんてね・・・　茶菓子と昆布茶は持参してね！

このチームの半分以上は高校時代付き合いが無かった、あの頃知り合っていたら、もっと高校時代が楽しかったかも・・・　どっちにしろ楽しかったけど。

50年前の3年間とチーム結成後の5年間、そして、これから。

今回の第4回同窓会から、「昭和45年同窓会サロン」のメンバーが増えるといいね。

これからも、思い出造ろうよ、いっぱい！

話と笑いの中、いじり・いじられ時は過ぎ、ふと外を見た・・・！

セレオ９階の窓は大きく南側に開けて遠く丹沢の山々を望む、その山肌の右側を赤い光が縁取っていく、それは見る見る広がり山も街も空も染めていった。

振り返って見える笑顔、その心の中にも暖かな光が広がっているだろうな、同窓会っていいよね！

また、次の同窓会で話そう・・いっぱい。

第4回 昭和45年卒 同窓会 報告　　参加者 60名

幹事長・級長・審判長	臼井　彰
企画・司会・ヘッドコーチ	田中　洋
受付・会計　？？？？	思い出せない
付録・落書き・スパーサブ	飯田　隆

参加者の集合写真

次回同期会は、平成31年春(5月)の開催予定です。

南多摩中等１期生によるあかね会飲食出店

井手田　悠希　（平成28年卒）

2016年度南魂祭において、のちに挙げるような様々な理由から非常に多くの１期生が７度目の文化祭参加をさせていただきました。

当日の飲食店の外装

というのも、今年度の文化祭は今までと異なり飲食団体がPTA・購買部・文化祭実行委員会という3団体しかおらず、以前のようにクラス団体などからの参加がありませんでした。

そうなってくると、様々な問題が発生します。

まず、第一に当日の飲食物の需要に対する供給が間に合わない上に、担当者の負担が急増するということ。

次に、飲食団体がないと明らかに活気がなくなるであろうことが想定されたこと。

ここで、生徒による飲食を完全に無くしてしまうと、後に飲食出店希望団体が現れた時に参考になるようなものがなくなってしまうこと。

以上に挙げられたような様々な理由から１期生による飲食出店を決意しました。

実際に活動を始めるためには様々な手順を踏む必要があり、困難ではありましたが、同窓会の先輩の皆様方や、購買部、PTAの方々による多大なるご支援によってそれらを乗り越え、実施させて頂く事が出来ました。

にぎわう飲食店

また、飲食出店をするにあたって参加した多くの1期生皆それぞれが楽しんで参加してくれた上に、最終的には、しっかりと黒字で終わりを迎える事ができ、非常に良い形で終わる事が出来たのではないかと思っています。

今回が初の試みであったこともあり、今後これに続く後輩が現れた時の為にしっかりとサポートしていけるように道を作っていきたいと思います。

非常に多くの１期生が参加してくれました。

新会員の御挨拶

佐藤　瞭（南多摩中等教育学校二期生）

部活は最後までやった。引退後も合宿に行った。南魂祭も、３つともがっつり参加した。中夜祭にも出演した。センター試験もうまくいった。４年のときから憧れていた東京大学に合格できた。南多摩でやりたいことは大体できたんじゃないかと思う。

部活や行事で、ひとつの作品やモノを仕上げていくのが楽しかった。突き動かされるように練習や作業をしていた。ひとつのことにしか意識が向かないようで、「文武両道」なんてものはできていなかった。６年次の文化祭までは部活・行事にほとんど時間を割いていて、受験対策にまともに時間を使い始めたのはその後だった。逆に心理的な境界がはっきりしていてよかったのかもしれない。

東京大学には一般入試で入るつもりだったが、「５年次のライフワークで書いた論文を改良したら、東大の推薦入試もいけるかもしれない」という三井先生の言葉がきっかけで推薦入試も視野に入れた。推薦入試では、改訂版の論文と、太鼓部が全国大会に出場した実績の２つを提出した。面接の後は落ちたかな、と思っていたが、何とか推薦入試で合格をもらうことができた。

……などと書いていられるのは、進路が希望通りに決定したからだが、いつでも順風満帆だったわけではない。２年のころは成績が悪く、担任の先生に「このままではまずい」と個人面談で言われるほどだった。ちょうどそのころ、父が『ドラゴン桜』というマンガを買ってきた。

和太鼓の練習をする佐藤君

高校生が１年で東大を目指すストーリーの中で、勉強のコツが紹介されているマンガだ（のちに東大に意識が向くきっかけにもなった）。書いてあることを次の定期テストでやってみたところ、得点が伸びていた。これがきっかけで、効率よく勉強を進められるようになったのだと思う。

部活でも、行事でも、受験でも、たくさんの人々に支えてもらった。東京大学に入学した後も人との関わりあいを大切にしていきたい。

鈴木　彩乃（南多摩中等教育学校二期生）

私の南多摩での六年間を表すと「部活動」のひと言に尽きます。中等一年の時、先輩方の明るい雰囲気に惹かれ、未経験ながら女子バレーボール部に入部しました。毎日重い荷物（一度計量したら10kgありました！）を持ち、慣れない電車通学かつ土日も部活動という凄まじい生活でした。後期課程に入るとさらに真剣に取り組むようになり、チームスポーツの難しさに圧倒され、ミーティングを重ねるたびに自分の視野の狭さや気遣いの足りなさを痛感する毎日でした。しかし、今は厳しいバレー部に入って本当に良かったと思っています。礼儀作法、相手の立場を思いやることなど人として大切なことを学べました。一番に感じたのは、自分がどれだけ周りの人に支えられているかということです。それは部活動に限らず、委員会活動やクラスでも同様で、南多摩には人目につかなくても陰で進んで仕事をしてくれる人が本当に多いと思います。それによって学校全体が成り立っているということ、その尊さを感じました。

また、私の目標は、部活動と勉強の両立でもありました。振り返ると、帰宅後疲れてお風呂にも入らず朝まで眠りこんでしまうことや、考査期間中でも部活の練習メニューを考えたこともありました。しかし、苦しい中でも目標を達成することができたのは、仲間がいたからです。みんな同じ境遇にいたからこそ、出来る時に出来ることを全力でやるという当たり前のことができたのかもしれません。今となっては、寝ずに取り組んだ英語の課題のおかげで、基礎が身についたのだと思えます。「すべてのことに意味がある」という言葉は核心を突いた言葉だと実感しました。

さらに、部活動を通して気づいたことは、先輩との繋がりのありがたさです。直接関わりのあった一、二年上の先輩方だけでなく、幾つも上の年代の南高の先輩方が夏休みの合宿に来て下さいました。文化祭や体育祭の行事でも、卒業から時が経っても南多摩に訪れて下さる多くの先輩方を見かけます。私たち後輩に出来ることは、「また訪ねたい」と思えるような、変わらない南多摩の伝統を、大切に引き継いでいくことなのだと感じました。

卒業後も、支えてくれた沢山の方々、そして貴重な経験を与えてくれた南多摩に恩返しが出来るよう実りある大学生活を送りたいです。

あかね会と同窓会活動・母校支援について

◆平成28年度あかね会総会開催

平成28年5月15日（日）、多数の南多摩中等教育学校第１期の卒業生を迎えて、平成28年度南多摩同窓会あかね会の総会が開催されました。

第１部の総会は、小林幹彦副会長（昭和45年卒）の司会で開始され、石川会長、永森校長のあいさつに続き、昭和36年卒の熊田義昭氏が議長に選出され、定期総会の議事に入りました。

議題は、平成27年度の事業報告、決算報告に続き、平成28年度の事業計画案、予算案について審議が行われ、それぞれが原案どおり決定されました。

平成27年度の事業報告には、体育館に掲げられていた南多摩高校の校章を西口玄関正面に設置する校章台の寄贈が報告されました。閉校した南多摩高校の校章は、体育館に掲げられていたもので、地上に下すと身の丈を越える大きさがあり、新たな南多摩中等教育学校の玄関に飾られることとなりました。

総会の様子

第２部は、同窓会顧問の黒須隆一氏（昭和35年卒・前会長）による講演がありました。テーマは「台湾における日本人の足跡」と題し、台湾の歴史、明治時代に台湾の自立のために粉骨をささげた日本人の姿とそれが現在の発展の礎になっていることを分かりやすく解説していただきました。

講師の黒須氏は前八王子市長ですが、今回の演題はもう一つの顔である「八王子・台湾友好交流協会」理事長という立場での話でした。参加者の中にも台湾を訪れた経験のある人も多く、講演後の質問も多く出されました。

講演をする黒須氏

懇親会の様子

第３部の懇親会は、西澤篤司氏（平成２年卒）と入沢修自氏（平成５年卒）の進行で始められました。会場には前校長の押尾勲先生、前副校長の吉田寿美先生、太鼓部の顧問である今川健司先生のほか、PTA会長の日笠美香氏に出席いただき、新入会員である今年の卒業生も25名が参加され、南多摩中等教育学校の卒業生を迎えるにふさわしい会になりました。

新入生から、「総会は予想以上に楽しかった。第一部の定期総会では予算がどう動いているか分かった。会員として縦の繋がりも大切にしていきたい」との感想が述べられました。

最後は音楽家・丸山久氏（昭和44年卒）の指揮で校歌を斉唱し、和やかな会は散会となりました。

◆高尾山納涼会の開催

８月20日（土）、恒例のあかね会納涼会が高尾山薬王院で開催されました。開始から終了まで雨の洗礼を受けた、まさしく涼しい納涼会となりました。

新しく赴任された永森比人美校長、池戸成記副校長、旧教員の木村真理子氏をはじめ33名が参加し、薬王院客殿で開催されました。

納涼会に先立って行われた第２回常任委員会では、あかね会活動協力金の報告、平成30年２月発行の会員名簿の概要、９月の文化祭「南魂祭」への出展計画、売店出店計画などについて協議が行われました。また、母校太鼓部が広島県三原市で行われた全国大会への初出場の報告があり大いに盛り上がりました。

正午から開催された納涼会では、OBの大山隆玄高尾山薬王院貫主、石川和昭あかね会会長の挨拶、黒須隆一顧問の乾杯があり、出席した皆さんは名物の山菜料理「高尾膳」を食しながら懇談会に入りました。外は降雨のために猛暑もひと休みした心地よさの中で、参加者の皆さんからひと言ずつ近況報告などがなされ、和やかなうちに納涼会を終えました。

高尾山納涼会参加の皆さん（薬王院客殿前で）

◆母校文化祭「南魂祭」に作品出展

南多摩中等教育学校の文化祭「南魂祭」が、9月10日(土)～11日(日)に母校で開催され、あかね会は、西館玄関から入った２階６年C組教室で、会員の作品展示等により参加しました。

今回で７回目となる「卒業生作品展」は、19人・39点の出展となり、同窓生による書道、絵画、写真、陶芸、能面、編物、生花、出版物などの作品が展示されました。中でも８月に太鼓部が初出場となった全国大会「ひろしま総文応援ツアー」の染谷英夫さん（昭和31年卒）の写真が、参観者の目を引きました。

昨年も好評だった中田君代さん(昭和37年卒)の指導による「折り紙教室」や恒例になった「あかね会クイズ」も中等生や父兄と共に参加した小さなお子さんで賑わいました。

上：折り紙教室の様子

下：南多摩の歴史を振り返るパネル展示

今回は、生徒による飲食店の出店がないことを知った中等生第１期卒業生18名が中心になって飲食店を出店し、文化祭の華やかさを盛り上げることができました。担当した中等生第１期会員の感想は、「予想以上に見応えのある店舗の飾りつけが作れた。運営に参加する者も楽しめた。初めての試みであったがとても良かった」などでした。

◆先輩に学ぶ開催

12月15日(木)、母校体育館で中等４・５年生の約300名を前に、黒須隆一顧問（昭和35年卒）から「当事者・リーダーになるということ」をテーマに「先輩に学ぶ」講演会が開かれました。

講師からは、リーダーを目指すことになった分岐点、経験した成功や挫折をいかに人生の糧としてきたか、南多摩の後輩に経験してほしいことなどを、熱く語っていただきました。

講演をする黒須氏

講演会の様子

講演終了後には、受講生から「（市長時代の）新しい発想はどこから生まれたのか。落選から学び、どのような取り組みをされたか。何故、レーシングドライバーを目指したのか」などの質問がありました。

最後に、生徒代表から「苦手な人前で話すことを克服するために、アパート屋上で演説練習をしたことを見習いたい。失敗から学んだこと、前例踏襲を打ち破った事例に感銘した。健康に留意している講師の元気な姿に学ばせて頂いた」などの答礼があり、講師から「しっかり聴いてくれて嬉しい。楽しい１時間でした」と感想が述べられました。その後、生徒から花束が贈呈され講演は終了しました。

◆あかね会新年会開催

平成29年1月14日(土)、南多摩同窓会あかね会の新年会が、京王八王子駅前のザ・ビー八王子において、40名が出席して開催されました。

石川和昭会長から新年の抱負が語られ、永森比人美名誉会長（校長）からは、母校の部活動の活躍、大学入試に向かう生徒の状況が紹介されました。部活動では、太鼓部が昨年夏に広島県三原市で開催された全国大会に東京代表で出場し、南多摩フィルハーモニーは福島県郡山市で行われた全日本合奏コンクールに参加したことなどが報告されました。

新年会の前に開催された常任委員会では、それまでの活動行事、会員名簿の発刊計画の報告に続き、29年度広報の発行計画が提案されました。

新年会は西澤篤司氏（平成２年卒）と入沢修自氏（平成５年卒）の進行で始まりました。永森校長、田母神副校長、PTA日笠美香会長にも参加いただき、挨拶の後、黒須隆一顧問による乾杯の発声で懇談に入りました。

左：第四高女の卒業生から南多摩中等教育学校卒業生までが一堂に

右：参加者全員で校歌斉唱

しばらく懇談の後、各テーブルから新春インタビューを行いました。最後は上野千惠子さん（昭和26年卒）、大塚光代さん（昭和30年卒）の音頭で第四高女の校歌、南多摩高校・中等教育学校の校歌を声高らかに斉唱しました。終始、新春の和やかな新年会でした。

学校法人片柳学園
東京工科大学
【昭和35年卒】
学長 軽部征夫　理事 黒須隆一
<八王子キャンパス>
〒192-0982 東京都八王子市片倉町1404-1
TEL.042-637-2111(代)
<蒲田キャンパス>
〒144-8535 東京都大田区西蒲田5-23-22
TEL.03-6424-2111(代)
www.teu.ac.jp
併設校:日本工学院専門学校／日本工学院八王子専門学校

S2 Sanbyosha 刷新ing
お任せ下さい！印刷のすべて。
取締役副社長　野口 富巳子（昭和35年卒）
有限会社 三共社
〒192-0041 東京都八王子市中野上町2-29-1
TEL.(042)625-8325　FAX.(042)625-8369
http://www.san-p.co.jp

お住まいに健康と団欒をお届けする
ミャンマーチークフローリングと周辺造作材専門店
ミャンマーチーク販売株式会社
代表取締役　臼井　成美
臼井　実千恵（旧姓岡村　昭和46年卒）
〒160-0023　東京都新宿区西新宿3-8-4　BABAビル
TEL：03-5333-3055　FAX：03-5333-3077
http://www.myanmar.co.jp

医療法人社団　大島会
大島耳鼻咽喉科気管食道科クリニック
院長　大島 清史／副院長　澁谷 正人
大島 富子(昭和25年卒)
〒192-0046 八王子市明神町4－5－9
TEL：042-642-8012
http：//www.oshima-ent.com

心のふるさと
祈りのお山
高尾山
薬王院 山主　大山 隆玄(昭和28年卒)
http://www.takaosan.or.jp

明るい未来を拓く、元気な子供達を育てます。
社会福祉法人　相友会
浅川 長房 西 諏訪
保育園
諏訪 のぞみ乳児園
理事長　村松 一恵（昭和28年卒）
法人本部〒193-0812八王子市諏訪町5 TEL：042-651-4555

病院、施設の給食品専門問屋
増田屋
株式会社 増田禎司商店
代表取締役　増田太郎／増田敦子(昭和34年卒)
〒193-0801 八王子市川口町1415
TEL:042-654-2222　FAX:042-654-5049
http://www.masudaya.1965.com

高級オリジナルニット
色彩の魔術師
齋藤都世子作品ルーム
浅野 常子（昭和34年卒 旧姓長谷川）
きもの浅野
〒192-0904 八王子市子安町3-32-10-106
☎・FAX:042(646)9833／090-1422-1192

西八王子駅北口徒歩2分 白木に囲まれた世界
レンタルギャラリー トラウト
代表　増田 克哉（昭和51年卒）
193-0835 八王子市千人町2－20－3
電 話:042－668－0123
http://www. g-trout. net

墓所のご案内いたします◇心を込めてお作りします
(有) 渡辺石材店
専務取締役 氏家 雅子(旧姓 渡辺) 昭和51年卒
創業90余年 母校近く、母娘共に南高の卒業生です！
〒192-0046 八王子市明神町1-25-1
電話:042-643-0213　FAX:042-643-8933
www.watanabesekizai.co.jp

NPO法人
八王子・台湾友好交流協会
理事長　黒 須 隆 一
(昭和35年卒)
〒192-0046 八王子市明神町4-1-2ストーク八王子205号
TEL・FAX 042-644-5580
携帯 090-6150-4965

TKC. KFS 推進事務所
加藤 晃 税理士事務所
●決算業務(法人税・所得税・消費税) ●相続税・贈与税申告
税理士・所長　加藤 晃(昭和38年卒)
〒192-0032 東京都八王子市石川町733-4
TEL:042-644-1771　FAX:042-645-7372
http://www.tkcnf.com/ntk/

皮膚科・アレルギー科

城山右田医院

院長　村田 恭子／右田 貞子(昭和 26 年卒)

〒252-0105 神奈川県相模原市緑区久保沢 1-2-7

TEL:042-782-2120

不動産業(賃貸マンション・貸倉庫)
石田倉庫のアートな2日間

石田産業有限会社

代表取締役社長　石田 高章
常務取締役　石田 菊江(昭和27年卒)

〒190-0013 東京都立川市富士見町 2-32-27 石田産業ビル 2F

TEL：**042-522-2406**　FAX；：042-525-0483

伊藤税務会計事務所

税理士 伊藤　仁教
伊藤　幸子 (昭和32年卒)

〒192-0045 八王子市大和田町3－6－21
TEL:(042)642-2719　FAX:(042)642-5034

医療法人社団　三真会

勝田医院

泌尿器科・内科・外科

院長　勝田真行／勝田三枝子(旧姓石森 昭和33年卒)

〒193-0803 八王子市楢原町 556—1
電話:042(625)2727　FAX：042(625)2700
〔休診日:日・祝、木・土の午後〕

《保育方針》心身共に丈夫な身体づくりと、
夢と希望を持った子供に育てよう。

社会福祉法人愛和会　**多賀保育園**

園長　和田 百合子(昭和35年卒)

〒192-0051 八王子市元本郷町3－6－18
電話:042-622-2054　FAX:042-622-2054

NAKANO
学校法人 八王子中村学園
なかの幼稚園

なかの幼稚園　そこは
子どもの世界です。

〒192-0041 八王子市中野上町 5-32-13
TEL:042-622-3001・FAX:042-624-3103
http://www.nakano-kd.ed.jp/
理事長 中村 健(昭和 46 年卒)

コンピュータソフト開発＆運用

(有)ライズ

代表取締役　中村 晋也(昭和53年卒)

〒192-0066 八王子市本町30-6 (N-Twoビル3F)
電話:042-620-5425　FAX:042-689-4149

創業67年
八王子で最も歴史ある水道工事店です

株式会社　市川工業所

施工管理技師　野澤 経子(旧姓 市川) 昭和55年卒
〒192-0065 東京都八王子市新町8－4
電話:042-642-4808　Fax:042-642-6829

一級建築士事務所

株式会社 浜中企画

浜中 賢司 (昭和44年卒)

〒193-0801 八王子市川口町 3411
電話:042(654)4325　FAX:042(654)6128
mail:hamanaka@tokyo.email.ne.jp

法あるところに救済あり！

司法書士・行政書士　空衣事務所

みなさまとお会いしたいと思っています
代表 入沢 修自(平成5年卒)
〒206-0011 東京都多摩市関戸4－23－1 関戸ビル301
電話:042-389-5570 Fax:042-389-0755
http://www.sorai-law.com

５月21日の「平成29年度あかね会定期総会」にご出席ください

南多摩同窓会「あかね会」は、あかね会規約第７条により、毎年５月の第３日曜日に八王子市内で定期総会を開催しています。

今年は、総会終了後に７ページに掲載したプロけん玉師・伊藤佑介氏（平成10年卒業）を講師に迎え、講演会を開催します。

同窓会総会は、現在の母校を知る機会であり、また、共に学んだ仲間との再会、年齢を越えた先輩や後輩の新たな出逢いの場でもあります。同級生、クラブ活動を共にした仲間等と誘い合ってご参加ください。

昨年の定期総会

平成29年度あかね会定期総会

【日時】平成29年５月21日（日）11時～
【場所】**ザ・ビー八王子**
八王子市明神町４-６-12　☎042-646-0111
【懇親会費】５千円（学生２千円）（当日徴収）

【プログラム】

総会　11時～12時

平成28年度事業報告・決算報告
平成29年度事業計画・予算案
役員改選

講演会　12時～13時

講師　**伊藤　佑介　氏**（平成10年卒業）
（プロけん玉師。大道芸人。日野市出身。
南多摩高校を経て青山学院大学法学部を卒業）
演題　「けん玉曲芸」

懇親会　13時～

昼食、懇談、新入会員の紹介等
【申込方法】常任委員を通じてお申込みください。
又は、下記へ５月14日（日）までにご連絡ください。
【申込先】　田中ミホ　☎042-646-1155
溝口　猛　☎090-6489-5939

「あかね会活動協力金」のお願い

この度のあかね会広報誌「みなみたま」第８号の発行は、卒業生会員（３万名弱）のうち、物故者、消息不明の方を除く１万８千名の方にお送りしました。

「あかね会活動協力金」は、母校のクラブ活動や進学指導等の支援を含み、広く同窓会活動全般の協賛を目的に会員の皆さまにご協力をお願いすることとしました。

１口千円とし、従来の広報発送費だけでなく、その他の母校を支援への資金として活用させていただきます。

ご協力はあくまでも任意です。お志のある方は、可能な範囲でご協力をよろしくお願いします。

あかね会活動に、ご一緒に参加してみませんか

◆高尾山納涼会（8月19日（土））高尾山薬王院の精進料理を食べて夏バテを解消。参加費5，500円（予定）
◆母校文化祭への出品者募集（9月9日（土）・10日（日））

母校の文化祭「南魂祭」に卒業生の作品展示を行います。書道、絵画、写真、陶芸作品などを募集します。
⇒連絡先　　田中　ミホ【電話】042-646-1155

住所変更の際には、あかね会にご一報ください

毎年、広報誌を発行しますと、多数の戻り便が発生しています。会員の皆様にご住所やお名前の変更がありましたときは、あかね会あてにご連絡ください。

【メール】meibo@akanekai.org
【郵　便】〒192-8562　八王子市明神町４-20-１
都立南多摩中等教育学校内　あかね会名簿担当あて

編集後記

今号では同学年全クラスの同窓会の記事を集めてみた。卒業して仕事や子育てに追われ、しばらく疎遠になっていた同級生との再会は過ぎ去った数十年の時を消し去ったことだろう。一方、卒業したての若者も文化祭で母校の支援に集まった。過ぎた時間は違っても再会したときの感覚はあまり違わないのではないだろうか。

年１回の発行だが、この会報が母校とすべての卒業生を繋ぐ一助になってくれることを願っている。（菱山）